

## 当クリニックの分娩の体制について

クリニックや病院によっては、かなり問題のあるお寒い体制のところもあるということをご存知の方は少ないと思います。

たとえば、当番の医師が病院内や病院のすぐ近くにいないで病院から30分以上もかかる新潟市内の自宅で休んでいるとか、助産師が足りなくてお産に立ち会えないとか、夜間の夜勤体制が手薄でナースがひとりしか夜勤していないとか、等々です。これは、新潟県内で実際にあるお話しです。

当クリニックで分娩を予定している皆様にとっては、当クリニックの体制がどうなのかということが最大の関心事だと思いますので、ご説明申し上げます。

### <産科医師の体制について>

茅原院長がすべてのお産に責任を持ちます。

院長が分娩時に立ち会いますが、院長が不在の場合は新潟大学等の代診医師が責任を持って立ち会います。

院長は、医師として各種学会や医師会活動、および各種の研究会に出席する必要があります。

また、時にはリフレッシュのために休息を取らせていただく必要もあります。

代診医師の分娩立ち会いになりましても、何の不都合もなくお産できますので、なにとぞご理解くださいますようお願い申し上げます。

なお、緊急帝王切開等の緊急時には、応援医師を依頼して医師複数体制で診察します。

よって、医師ひとりだけで帝王切開するということはございません。

### <助産師体制について>

当クリニックの助産師は、総勢10名です。

婦長以下、常勤助産師が7名、看護部顧問も含めてベテランの非常勤助産師が3名です。

県内でも屈指の体制ですし、おそらく全国的にもかなり恵まれた状況だと思います。

皆様の大切なお産の際には、夜間でも休日でも助産師が必ず立ち会って、心をこめてお世話させていただきます。

### <ナースの体制について>

看護師（10名）・准看護師（3名）は、分娩第I期～IV期までの、看護業務と助産師の助手業務をいたします。

夜勤体制は、2名プラス拘束勤務1名です。その3名の中に1名以上の助産師が必ず含まれます。

以上のように、当クリニックの分娩体制は、大きな総合病院の産科病棟にも勝るとも劣らない充実した体制です。

よって、皆様のお産の際には、通常下記のような状況になります。

お産が始まって入院しますと、まず赤ちゃんの心音検査と産道の状況の診察をします。医師もしくは助産師が診察します。看護師・准看護師はその助手業務をします。

分娩経過中は、特に問題がなければ、助産師が中心になって、看護師、准看護師とともに、チームとして産婦さんとおなかの赤ちゃんのお世話をします。

分娩経過に問題があれば、いつでも院長もしくは代診医師に報告されます。

経過が正常であれば、助産師がお世話の中心になりますが、何らかの異常所見があれば院長もしくは代診医師が説明します。

いよいよ、赤ちゃんが生まれる際には、正常分娩であれば助産師が中心になってお世話します。医師は母子の異常所見の有無を診察します。看護師・准看護師は分娩助手業務として補佐します。

以上のように、チームとして最低でも3～4名以上のスタッフが皆様のお世話をします。

どうぞご安心ください。

そして、「安らかな良いお産」を目指して頑張りましょう。

平成23年（2011）11月1日 院長：記